

# 想像・創造性に向けた概念形成・発展を支えるもの

田村 高幸 (Takayuki Tamura)

千葉大学大学院社会科学研究院

概念とはいかなるものかについては、哲学の分野だけでなく、多くの分野で研究が進められてきている。その際に、どの研究においても、概念は固定化されることで、その働きを十全に発揮すると思われているように私は感じている。実は数学・論理学分野で考えると、一応、定義により当該概念を式により固定するようにするが、その式の読みの可能性やその式や概念の発展可能性については、開かれた状態であり、当該の概念はそのような発展の可能性を受け入れるものとして、取り扱われていると捉えられる(実際、数学者は式に対する自分の読み中で更に文法を構築し、当該概念の内実を明らかにし、発展させているように私は感じている)。

今回の提題においては、このヴィヴィッドな概念理解を示すとともに、今まで固定された概念理解は当該概念理解の部分をなし、比較対象の役割なし、当該概念の内実を明らかにする(すべてが明らかになるとは私は思わない) 働きをもつものであることを明らかにしたい。